

# オウム対策住民協議会ニュース

## 新実行委員長のあいさつ

鳥山地域オウム真理教対策住民協議会 瀧澤直幸

「編集長出て来い、オレはオウムの麻原彰晃だ」。街宣車からの激しい怒号で浅い眠りを破られた。「オウム真理教の狂気」を特集したサNDERー毎日への抗議だった。23年前、勤め先の宿直で仮眠中のこと、これが私とオウムとの出会いだった。同じころ、1989年11月、坂本弁護士一家がオウムによって拉致・殺害され、その5年後、家族3人の遺体が3県でそれぞれの山中から発見された。この事件を発端にオウムは、恐るべき大量無差別殺人、拉致・監禁、土地・財産の詐取事件を起こしていく。1990年3月、オウムは目黒公証役場事務長であった假谷



清志さんを、実妹の行方を聞き出す目的で、路上で拉致、上九一色村（現河口湖町）の教団本部で自白強要の麻酔で殺害、焼却した。麻原彰晃逮捕後、富士山を仰ぎ田畑が広がる、かつての上九一色村の施設跡を取材した時、上九一色村で反対活動を続けた竹内さんが、ここで実際、一体何人殺されたか分らない、と資

鳥山地域  
オウム真理教対策  
住民協議会

料を前にしみじみ語ってくれた。第7サテアンにはサリン製造工場があった。94年6月の松本サリン事件では死者8人、負傷者150人を出した。95年3月には強制捜査の目をはぐらかそうと地下鉄サリン事件を起こした。死者12人、負傷者5000人以上。いまだに苦しんでいる人がいる無差別大量殺傷事件だった。麻原彰晃は国家破壊を求めて生物兵器を生産、軍事兵器の保有、原爆さえも考えた、多数の関係弁護士が指摘している。

12年前、そのオウム信者が鳥山へ大量転入、急ぎ近隣の町会・自治会が招集され、その場で「対策住民協議会」を結成。あのオウムが鳥山に！、当時は晴天の霹靂、地域が怒りで燃え上がった。

いまオウム真理教はアレフとひかりの輪に分裂していると言われていたが、オウムはひとつ。ひかりの輪は「脱麻原」を唱えながら、実際は麻原崇拜を強め信者奪還、組織拡大を狙っていると公安はみている。鳥山に本部を置くひかりの輪のセミナーに三桁の有名私立大学生が参加しているとの情報もある。信者の若年化の傾向が認められ、35歳未満が65%という見方もある。勧誘状況は17年の56人に対して23年には213人、と先月の学習会で中村弁護士が話された。上祐は年間300人の勧誘を目標にしている。オウムが今まで何をしてきたか、これから何をしようとしているのか、そのことをもつと広め継承し、オウムの解散・解体までがんばりましょう。今まで以上のご指導をお願いしたい。

### －オウム真理教問題講演会－

## 講演 「オウム真理教を風化させない!!」

講師：松岡烈氏 (NHK報道局社会部副部長)

※5月放送の番組「未解決事件オウム真理教」の制作スタッフ

日時：平成24年12月14日(金) 午後2時30分～5時

会場：鳥山区民会館ホール

(南鳥山6-2-19 鳥山区民センター内)

主催：世田谷区

## 監視小屋だより

オウム真理教への監視活動は地域住民の皆さんの協力により、今日に至っています。現在は39の団体（町会・自治会、小・中学校PTA、青少年地区委員会、商店会）の皆さんが年間のローテーションを組み、信者たちの動向、生活の様子などを日誌に記録しています。

〈日誌より抜粋〉

◆PTAとして監視に何回か参加しましたが、今日は自治会の当番として立ちました。あの目立っていた地主の方はとうに亡くなり、サンサンマンションも取り壊されて住宅を建築中でした。周りは様変わりしても、オウムの恐怖は変わらず。いつまで続くのか？

◆大勢の人が4台の車で出て行った。（他府県ナンバーあり）セミナーを受けた人を乗せたようで、上祐も乗っていた。（H24,5,3）

◆ほかの部屋から101号室への移動が多い。駅方面から徒歩で4～5名が来て、101号室へ入室。公安の方の話だと、本日10時から外部講師の人を招いて「内観療法セミナー」が行われているとのこと。10名前後が参加と、ひかりの輪HPで告知あり。予定では、21時まで実施。（H24,5,20）

◆大型バイクに乗った40代男性が101号室へ入る。名前を名乗って、「修行に来ました」と言っていた。

大阪での説法の中継があるとのことで、人の出入りが多かった。（H24,6,24）

◆ジャーナリスト、リポーターが10時45分にインタビューの約束があると待機していた。（H24,6,27）

◆今日は午前8時より公安調査庁の立ち入り検査あり。調査員15名程度、ほかに5名。信者の出入りの際、調査員より手荷物チェックされていた。集会があるので、21時頃までいるとのこと。（H24,9,26）

◆GSハイムの一般住民の方が外出されるときに「ご苦労様です。ありがとうございます」と声をかけてくれました。

オウムが烏山にきてから12年が経ち、現在は、「ひかりの輪」の出家信者10名ほどが居住しています。「ひかりの輪」は、外国にまで布教活動を広げ信者の数を増やしています。上祐代表は「脱麻原」を表明し、危険ではないとアピールしていますが、その実態は何ら変わっていません。住民協議会は、今後も地域住民のご協力を得ながら、オウム真理教解散・解体を目標に活動を続けていきます。

## 今年の住民協議会活動を振り返る

### 闘いの相手はアレフからひかりの輪へ

アレフは昨年足立区入谷に約1億円で4階建てのビルを購入、新たな本部拠点を設け、それに伴い烏山地域に居住していたアレフ信者（約40名）が移転した。足立区はそれ以前に2ヶ所の施設を抱えていたが、オウム真理教の新たな進出に、一気に怒りが爆発、裁判も含め住民の闘いが始まった。

一方烏山地域は、残ったひかりの輪（約10数名）が闘いの相手となったが、最大130名の信者が居住していたことを思えば、それは余りにも小さく感じられた。

### 外部監査委員会の信頼性は

信者の減少により、住民からは活動形態の変更、監視活動の見直しの声も出たが、ひかりの輪は昨年12月、松本サリン事件の被害者河野義行氏を代表に外部監査委員会を設立、安全な団体とのアピールを始めた。狙いはオウム真理教の活動を規制する「観察処分」の除外だ。アレフは「麻原回帰」「麻原奪還」を叫び一層先鋭化しているが、ひかりの輪は一環し

て「麻原からの脱皮」「住民との融和」を主張するのはそんな事情もある。外部監査委員会については、今後も警戒を怠ることなく監視する必要がある。

### 全国の住民協議会と連帯の予感

アレフ・ひかりの輪がどのような戦術を使おうが、住民協議会は元気に活動を継続している。今年も監視活動、募金活動、抗議デモ・学習会、ニュースの発行、住民の支援によるリサイクルバザーなど多彩な活動を行った。特筆すべきは、足立区入谷オウム真理教対策住民協議会との連帯だ。アレフ信者が足立区へと移転したこともあり、烏山地域住民協議会は足立区の協議会設立時より、オウム真理教との闘いで協力関係を築いてきた。今年も相互で抗議デモ・学習会に参加し、関係を一層緊密なものにした。お互いの目標はオウム真理教の「解散・解体」で、この活動目標で全国の協議会組織との連帯を予感させる一年でもあった。

## 住民協議会活動報告

11月22日（木） 実行委員会

11月26日（月） 協議会ニュース121号初校正

12月 3日（月） 協議会ニュース121号再校正

12月11日（火） 協議会ニュース121号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。